

いつくしむ ～子どもも私もかけがえのない存在～

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもは「かけがえのない存在」であり、「大切な存在」であることを感じるとともに、自分自身も大切な存在であることを考える。 ● 「かわいくなって、大事にする」意味を持つ“いつくしみ”の思いを、子どもに伝えていくことの大切さを感じる。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育ての中で「感じていること」や「困っていること」等について話し合う。 ● 一人一人の命や生きていることのかけがえのなさ、素晴らしさが伝わる「絵本」を読み、感じたことを話し合う。 ● 参加者の「気づき」等を出し合い、今日の学習を振り返る。
ポイント	<div style="border: 1px solid #6aa84f; border-radius: 10px; padding: 10px;"> <p>【進め方の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「日々の子育ての中で感じていることの話し合い」と「子どもが生まれた頃の話し合い」は、時間をかけて、一人一人の思いを出し合えるようにする。 ● 絵本『いのちのまつり』の読み聞かせは一例であり、他に、“子どもだけでなく、親自身も命を受け継いだかけがえのない存在である”ことが意識できる材料・方法があれば活用する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 親子関係で特に実感される“いつくしみ”の感情をより深く心に刻むために、グループ内の仲間意識・共通認識が生まれるよう、導入となるアイスブレイクや、冒頭の話し合いの時間は十分に取る。 ● 子どもを愛おしいと思う感情を、グループ全体の共通認識として捉えるため、子どもが生まれた頃のことを思い返す話し合いは、丁寧に行う。 ● 子どもが「かけがえのない存在」であることをグループ内で確認できたら、次は、親自身が「かけがえのない存在」であることを認識してもらえようような資料、エピソード等を用意する。 ● 時間があれば、子どもへの思いを手紙にするなど、“いつくしみ”の感情を伝えることの大切さを呼びかける。
準備物	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆記用具 ● 絵本：『いのちのまつり』（草場一壽 著／平安座資尚 絵〈サンマーク出版〉） ● 資料（P34）

プログラム進行例

時間	展開	ポイント・留意点
5分	支援者から挨拶と自己紹介 今回のプログラムの趣旨説明 3つの約束の確認	<ul style="list-style-type: none"> ● 和やかな明るい雰囲気になるように心掛ける。 ● ねらい・活動の流れ等について、ポイントを絞って説明する。 ● 3つの約束を守るよう周知する。

10分	<p>アイスブレイク アイスブレイク集から適宜選択して実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 和やかな雰囲気作りとともに、参加者の自己紹介をかねる。 ● 状況により省略してもよい。
<p>重点 35分</p>	<p>日々の子育ての中で感じていることの話し合い</p> <p>◎「日々の子育ての中で、最近のわが子について感じていることや困っていることなどをワークシートに書いてください。」</p> <p>◎「書いたことをグループ内で発表し合しましょう。」</p> <p>子どもが生まれた頃の話し合い</p> <p>◎「皆さんのお子さんが生まれた頃の思い出等を話し合ってください。今、毎日の子育てで感じておられることと変化がありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしてその名前を付けたのか ・ 初めて抱っこした時の気持ち ・ 事故にあった時、病気になった時の思い など <ul style="list-style-type: none"> ● 資料の紹介 <p>◎「資料にあるように、お子さんが生まれるということは、すごい確率であり、また、何億という精子のうち、もし違う精子であれば、今のお子さんは生まれていないのですね。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● できるだけ具体的に書いてもらう。 ● 些細なことでもよいので、たくさん書いてもらう。 ● 子育ては、楽しいことばかりではなく、時には嫌になることがあるかもしれないが、子どもに対する「いとおしさ」は変わりなく、親にとって「かけがえのない存在」であることを、生まれた瞬間の思いに立ち返ることで、再認識してもらう。 ● 資料を配布し、「いのちの誕生」を読みあげる。 ● わが子は、現在・過去・未来にわたって、同じ存在はいない「唯一無二」の「かけがえのない存在」であることを実感してもらう。
25分	<p>読み聞かせと話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 絵本の読み聞かせ <p>◎「絵本『いのちのまつり』を読みます。絵本を見ながら、聞いてください。」</p> <p>◎「命の尊さを訴えている作品ですが、どんな感想を持ちましたか。それぞれが感じられたことを話してもらいましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 親や子の「命の素晴らしさ」「かけがえのない存在」に気づいてもらう。 ● とりわけ、親自身も命を受け継ぎ、「かけがえのない存在」であることを認識してもらう。
15分	<p>活動の振り返り</p> <p>◎「それぞれのグループで、どのような話が出ましたか。グループごとに発表してもらいましょう。制限時間は3分ですので、まとめて話してください。」</p> <p>◎「ありがとうございました。皆様のご意見を聞いて、今、私（参加者）が、そしてわが子がここにこうして生きていることの素晴らしさを感じると同時に、一人一人がかけがえのない存在であることが話し合われたように思います。」</p> <p>◎「今日は、自分のこと、お子さんのことでいろいろと感じられたことと思います。資料には子どもへのいとしさを表現した絵本のリストも入っておりますので、ぜひ図書館で借りていただき、お子さんと一緒に読んでみてください。」</p> <p>◎「また、お子さんにその思いを何らかの形で伝えることは大切です。手紙に託すのもよいかと思っておりますので、お子さんに、あるいは自分に対して手紙を書いてみてください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料にある「絵本リスト」を紹介する。 ● 本日得られた思いをより強く認識し子どもに伝えてもらうため、時間に余裕があれば、手紙を書いてもらう。